



## 退任のごあいさつ

前天理市長 南 佳策

私は平成13年10月28日、7代目の天理市長に就任しました。以来12年間、「生きてきてよかったと実感できるまち天理市」づくりを軸に、市政運営にあたらせていただきました。この間、さまざまな出来事がありました。その一コマ、一コマがついに昨日のように思い出されます。

就任と同時に取り組んだのが、年々膨張していた一般会計予算を計画的に縮減していくことと、市職員数の適正化の道をつけたことです。行財政改革には常に痛みが伴いますが、今やらなければならぬ仕事とそうでない仕事の選別を断行しました。結果、職員数も200人の減員を図ることができました。

そして私自身、全身全霊を傾けたのが菅原町産廃処分場問題です。10年越しという市政上かつてない課題と向き合いました。荒井県知事の英断もあり、今年2月に奈良地裁で奈良県の許可取消処分が確定しました。

また、市民とともに誇りた事業の一つに、天理市が平成22年度で県内12市のトップを切り、下水道事業の普及率100%を達成できたことがあり、生活基盤整備や教育施設の整備等も着々と進んでいます。

加えて、安心・安全の拠り所としては山辺広域新消防庁舎が本年末に完成するのをはじめ、市立病院はメディカルセンターに衣替えし市民の健康管理の拠点として、来年4月にスタートを切ります。

健康で公務にまい進できたことは、ひとえに市民の皆さまの励みがあったからこそです。次代を担う天理っ子たちには、夢を追い求めてもらいたい思いでいっぱいです。

そういう意味でも、リニア中央新幹線の間駅誘致が正夢となってくれることを願わずにはいられません。

来年は市制60周年を迎えます。一市民として、天理市の一層の発展をお祈りいたします。ありがとうございました。

## 風しんワクチン予防接種の助成のお知らせ

今年は、これまでにない風しんが大流行しました。妊娠初期の人が風しんにかかると、赤ちゃんが※先天性風しん症候群になる危険性もあることから、風しんワクチンの接種をお勧めしています。

本市では風しんワクチンの接種を受けられたつぎの助成対象者に、その費用の一部を助成します。

※先天性風しん症候群とは、白内障・先天性心疾患・難聴を主な症状とする疾患です。

### 助成対象者

天理市に居住する人で、以下のいずれかに該当する人（接種時点）。

- ①平成7年4月1日以前に生まれた人で、妊娠を予定または希望している女性
- ②妊婦の夫
- ③妊婦の同居家族

☆原則、住民基本台帳で確認します。

☆ただし、すでに風しんワクチンを2回接種している人、及び風しんにかかった人は除く。

### 実施時期

平成26年3月31日（月）まで

### 費用助成

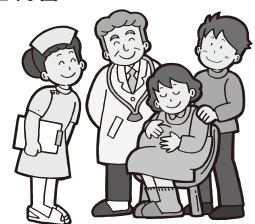
1人1回で、MR（麻しん・風しん）予防接種は6,000円を上限として、風しん単独の予防接種は、4,000円を上限として助成します（費用助成は平成25年4月1日まで遡って助成します）。

ただし、生活保護世帯の人は全額費用を助成します。

### 助成方法（償還払い）及び必要なもの

- ・接種したことと、接種費用がわかる医療機関の領収書もしくは、医療機関の証明書
- ・印かん及び振込先の口座番号がわかるもの（ただし、郵貯銀行は不可）
- ・妊婦の夫、または妊婦の同居家族の人は母子健康手帳
- ・生活保護世帯の人は支給票

☆接種前には助成できません。



◆問い合わせ 健康推進課（☎内線777）へ